

2.6 変数変換

確率変数を X_1, \dots, X_p とし, その pdf を

$$f(x_1, \dots, x_p) \quad x_1, \dots, x_p \in \mathbb{R}$$

とする. いま,

$$y_i = y_i(x_1, \dots, x_p) \quad (i = 1, \dots, p)$$

と定義する. ここで, 逆変換が存在することを仮定して,

$$x_i = x_i(y_1, \dots, y_p) \quad (i = 1, \dots, p)$$

とする. このとき,

$$Y_i = y_i(X_1, \dots, X_p) \quad (i = 1, \dots, p)$$

と定義すると確率変数 Y_1, \dots, Y_p の pdf は

$$g(y_1, \dots, y_p) = f(x_1(y_1, \dots, y_p), \dots, x_p(y_1, \dots, y_p))J(y_1, \dots, y_p)$$

ただし,

$$J(y_1, \dots, y_p) = \text{mod} \begin{vmatrix} \frac{\partial x_1}{\partial y_1} & \cdots & \frac{\partial x_1}{\partial y_p} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ \frac{\partial x_p}{\partial y_1} & \cdots & \frac{\partial x_p}{\partial y_p} \end{vmatrix}$$

であり, **ヤコビアン** (Jacobian) という. ここに, $|\cdot|$ は行列式, mod は絶対値を表す.

例

確率変数 X_1, X_2 の pdf が

$$f(x_1, x_2) = \begin{cases} 4x_1x_2 & (0 < x_1 < 1, 0 < x_2 < 1) \\ 0 & (\text{else}) \end{cases}$$

ならば,

$$Y_1 = \frac{X_1}{X_2}, \quad Y_2 = X_1X_2$$

としたとき, Y_1, Y_2 の確率密度関数 $g(y_1, y_2)$ を求めよ.

逆関数を求めると,

$$x_1 = (y_1 y_2)^{\frac{1}{2}}, \quad x_2 = \left(\frac{y_2}{y_1}\right)^{\frac{1}{2}}$$

であるから,

$$\begin{aligned} \frac{\partial x_1}{\partial y_1} &= \frac{1}{2} \left(\frac{y_2}{y_1}\right)^{1/2}, & \frac{\partial x_1}{\partial y_2} &= \frac{1}{2} \left(\frac{y_1}{y_2}\right)^{1/2} \\ \frac{\partial x_2}{\partial y_1} &= -\frac{1}{2} \left(\frac{y_2}{y_1^3}\right)^{1/2}, & \frac{\partial x_2}{\partial y_2} &= \frac{1}{2} \left(\frac{1}{y_1 y_2}\right)^{1/2} \end{aligned}$$

より, y_1 が正であることを注意して

$$J(y_1, y_2) = \frac{1}{2y_1} (\neq 0)$$

を得る. $x_1 x_2$ 平面の図形を

$$S = \{(x_1, x_2) | 0 < x_1 < 1, 0 < x_2 < 1\}$$

とおく. $y_1 = x_1/x_2$, $y_2 = x_1 x_2$ によって, 図形 S が $y_1 y_2$ 平面の図形

$$T = \left\{ (y_1, y_2) \mid y_1 > 0, y_2 > 0, y_1 y_2 < 1, \frac{y_2}{y_1} < 1 \right\}$$

に 1 対 1 に対応するから,

$$g(y_1, y_2) = 2 \frac{y_2}{y_1} \quad (y_1, y_2) \in T$$

である.

3 多変量正規分布

多変量正規分布を導入する前に, 1 変量の正規分布を復習する. 確率変数 X が平均 μ , 分散 σ^2 の正規分布に従うとする. このとき, X の pdf は

$$f(x; \mu, \sigma^2) = \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} \exp \left[-\frac{1}{2\sigma^2} (x - \mu)^2 \right] \quad -\infty < x < \infty$$

である。ここで

$$\int_{-\infty}^{\infty} f(x; \mu, \sigma^2) dx = 1$$

を示す。

変数変換 $y = (x - \mu)/\sigma$ を用いると

$$\int_{-\infty}^{\infty} f(x; \mu, \sigma^2) dx = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_{-\infty}^{\infty} \exp\left[-\frac{1}{2}y^2\right] dy$$

を得る。ここで、

$$I = \int_{-\infty}^{\infty} \exp\left[-\frac{1}{2}y^2\right] dy$$

とおくと

$$\begin{aligned} I^2 &= \left(\int_{-\infty}^{\infty} \exp\left[-\frac{1}{2}y^2\right] dy \right) \left(\int_{-\infty}^{\infty} \exp\left[-\frac{1}{2}t^2\right] dt \right) \\ &= \int_{-\infty}^{\infty} \int_{-\infty}^{\infty} \exp\left[-\frac{y^2 + t^2}{2}\right] dy dt \end{aligned}$$

であり、極座標変換 $y = r \cos \theta$, $t = r \sin \theta$ のヤコビアンは、

$$J(r, \theta) = \boxed{\text{読者の演習}}$$

である。したがって、

$$\begin{aligned} I^2 &= \boxed{\text{読者の演習}} \\ &= \int_0^{2\pi} \int_0^{\infty} r \exp\left[-\frac{r^2}{2}\right] dr d\theta \\ &= \boxed{\text{読者の演習}} \\ &= 2\pi \end{aligned}$$

より、 $I = \sqrt{2\pi}$ を得る。以上から、

$$\int_{-\infty}^{\infty} f(x; \mu, \sigma^2) dx = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} I = 1$$

である。

確率ベクトル (random vector) $\mathbf{X} = (X_1, \dots, X_p)'$ が次の pdf をもつとき, \mathbf{X} は**平均ベクトル** (mean vector) $\boldsymbol{\mu} = (\mu_1, \dots, \mu_p)'$, **共分散行列** (covariance matrix) $\boldsymbol{\Sigma} = (\sigma_{ij})_{p \times p}$ の多変量正規分布に従うという. 任意の $\mathbf{x} = (x_1, \dots, x_p)' \in \mathbb{R}^p$ に対して,

$$f(x_1, \dots, x_p; \boldsymbol{\mu}, \boldsymbol{\Sigma}) = \frac{1}{(2\pi)^{p/2} |\boldsymbol{\Sigma}|^{1/2}} \exp \left[-\frac{1}{2} (\mathbf{x} - \boldsymbol{\mu})' \boldsymbol{\Sigma}^{-1} (\mathbf{x} - \boldsymbol{\mu}) \right] \quad (1)$$

後に詳細を説明するが, 共分散行列 $\boldsymbol{\Sigma}$ はその名の通り対角成分に分散 $V(X_i) = \sigma_{ii}$, 非対角成分に共分散 $Cov(X_i, X_j) = \sigma_{ij}$ を要素として持つ行列である. このことから, $\boldsymbol{\Sigma}$ が実対称行列であることがわかる. また, 共分散行列 $\boldsymbol{\Sigma}$ は**正定値** (positive definite) であることを仮定する.

正定値

$n \times n$ 実対称行列 A が正定値であるとは, $\mathbf{0}$ でない全てのベクトル \mathbf{x} に対して, 二次形式 $\mathbf{x}' A \mathbf{x}$ が必ず正となることである.

正定値行列の同値条件

- (i) $\mathbf{0}$ でないすべてのベクトル \mathbf{x} に対して, $\mathbf{x}' A \mathbf{x} > 0$
- (ii) A のすべての固有値 λ_i が $\lambda_i > 0$ を満たす
- (iii) $A = \mathbf{W}' \mathbf{W}$ となる正則行列 \mathbf{W} が存在する

(1) が pdf の条件を満たすことを確認する. 共分散行列 $\boldsymbol{\Sigma}$ (対称行列) が正定値であることを仮定するので,

$$(\mathbf{x} - \boldsymbol{\mu})' \boldsymbol{\Sigma}^{-1} (\mathbf{x} - \boldsymbol{\mu}) \geq 0 \quad (2)$$

であるから,

$$0 \leq \exp \left[-\frac{1}{2} (\mathbf{x} - \boldsymbol{\mu})' \boldsymbol{\Sigma}^{-1} (\mathbf{x} - \boldsymbol{\mu}) \right] \leq 1$$

であることが確認できる. また, 正定値の同値条件 (iii) から

$$|\boldsymbol{\Sigma}| = \boxed{\text{読者の演習}} > 0$$

を得る. 以上から, 任意の $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^p$ に対して $f(x_1, \dots, x_p; \boldsymbol{\mu}, \boldsymbol{\Sigma}) \geq 0$ である.

3.1 演習問題

問1 確率変数 X_1, X_2 の pdf が

$$f(x_1, x_2) = \begin{cases} 4x_1x_2 & (0 < x_1 < 1, 0 < x_2 < 1) \\ 0 & (\text{else}) \end{cases}$$

ならば,

$$Y_1 = X_1 + X_2, \quad Y_2 = X_1 - X_2$$

としたとき, Y_1, Y_2 の pdf は $0 < y_1 + y_2 < 2, 0 < y_1 - y_2 < 2$ に対して (ア) である. 文中の (ア) に当てはまるものとして, 次の ① ~ ④ のうちから適切なものを一つ選べ.

- ① $y_1 - y_2$ ② $y_1^2 - y_2^2$ ③ $(y_1 - y_2)/2$ ④ $(y_1^2 - y_2^2)/2$

問2 本文中の式 (2) における等号成立条件は, (イ) である. 文中の (イ) に当てはまるものとして, 次の ① ~ ④ のうちから適切なものを一つ選べ.

- ① $x = 0$ ② $x = 1$ ③ $x = \mu$ ④ $x = \mu/2$

問3 確率変数 X が平均 μ , 分散 σ^2 の正規分布に従うとき, 次の記述 I ~ III を考えた.

- I. パラメータ μ は分布の期待値である.

II. パラメータ μ は分布のメジアンである.

III. パラメータ μ は分布のモードである.

記述 I ~ III に関して, 次の ① ~ ④ のうちから最も適切なものを一つ選べ.

- ① I のみ正しい. ② I と II のみ正しい.
- ③ I と III のみ正しい. ④ I と II と III はすべて正しい.